

花卉産業人の入り口に立つために

園芸別科花組2年

坂 田 隆

私は、社会人（電機メーカーを55歳で選択定年）を経て、興味のあった園芸を第二の人生に選び、別科に入学しました。つくばエキスプレスTXで柏の葉キャンパスへ向かうと、新しい大規模商業施設や林立する建設中のマンション群が見えてきます。1980年代の東急田園都市線沿線の街の発展を思い出させます。東急沿線は丘陵地帯、TX沿線は広々とした水田地帯と違いはあるものの、東京東側エリア～30km圏の大変身には驚くべきものがあります。

さて、既にご存知のとおり、40年の歴史がある園芸別科は、平成29年度募集が最後となり、1年次に花卉専攻1名という状況です。別科開講の授業は、学生の私1人に対してマンツーマンで実施しており、先生と私、ともに初めての形態であり、とても贅沢な授業となっています。座学および実習はもちろんのこと、1年次で最もエネルギーを費やしたのは、花葉会主催「花産業必修1000属検定」です。花の名前を知らなければ、花卉産業人として入り口に立てないと感じ、また、検定に合格すれば園芸別科に在籍した足跡を残すこともできます。急がば回りで紙のリストをエクセル化し、「ウィキペディア」「みんなの趣味の園芸」

「ヤサシイエンゲイ」のURLを貼り付け、花の画像と一緒に覚えるようにしました。また、覚えた記憶にアドレスできるように、例えば、

- ① 「どんぐりは食える→クエル→*Quercus*」
- ② 月見草と言えば野村元監督、野村元監督と言えば王(O)・江夏(E)・長嶋(N)→*Oenothera* という具合です。また、手で書くことにより、ラテン語の規則性やギリシア神話に出てくるような名前に慣れさせます。そして、過去に受けた不合格の問題(6回分)を冬期休暇に集中して繰り返し解き、やっと7回目3月にC級合格(183/200)しました。終わってみれば新鮮で充実した時間でした。

園芸別科は「理論」と「実践」を柱に、特に実践では、ユーザーに出荷・納入する商品を扱いながら実習を受けます。その実習では原価(特に人件費)を意識した作業が求められます。播種では、マリーゴールド288穴トレー1枚／15分、他にパンジーなどはドラムシーダでの機械播きですが、一部手播きがあります。種子が極めて小さく、若人を超えない作業でした。挿し芽では、ペチュニアの挿し芽作業を半日でトレー1枚200本以上、目標トレー2枚400本です。挿し穂の長さ3cm、葉枚数6枚、花芽が無いことを確認しながら

母株からカミソリでカットし、400本を挿し芽します。1本当たり約30秒×400回です。無言で作業に徹します。ポット上げでは、パンジーのポット上げ総計5,400ポットと桁違いの数です。いずれも作業品質を維持しながら、スピード(播種)、スピード(挿し芽)、スピード(ポット上げ)です。一方、シクラメンのように、種子から一年間かけて鉢花に育て上げるものもあります。12月播種、土作り、3号ポット鉢上げ、4.5号中間鉢増し、6号鉢増し、葉分け、葉組み、12月出荷と一年間手塩にかけて大株に育てていきます。実習の一部の紹介ではありますが、充実した実践教育によって経験知が上がったと思います。

二年次になると、専攻特別研修(花卉)が始まります。各自が研修テーマを決め、策定した計画にしたがって調査・記録し、中間報告を行いながら修了論文を完成させます。今回実験テーマに選んだのは、和名：フタバムグラ、生薬名：白花蛇舌草、学名：*Hedysarum diffusa* auct. non Willd.です。抗がん活性の研究報告がある機能性植物です。現在、収量最大の栽培条件を調査実験中のところです。

最後に、数十年前に都内の書店でサイン会があり、新書に一筆「花は自ずと紅なり」と書いて貰ったことがあります。持って生まれたものを精一杯に咲かせるとの意味です。

ここでの貴重で贅沢な勉学を肥やしにすることと、教職員の方々に深く感謝をし、パソコンを閉じます。
G r a z i e !



スペーシング(パンジー)の実習中の筆者